

教育センターだより

第49号 令和3年7月14日発行

日野市立教育センター 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0505 Fax 042-592-1148 午前8時30分から午後5時15分 休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始	わかば教室 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0863 Fax 042-592-1148 午前9時から午後4時 休業日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始
---	--

教育センターだより第49号の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 正 留 久 巳

令和3年度は、第3次日野市学校教育基本構想（2019～2023年度）の3年目となります。学習指導要領は小学校に引き続き中学校が本年度より完全実施となりました。本市の基本構想は学習指導要領のねらいを先駆的に進めてきています。本年度は5年間の半ばでもあり、一層、具現化を図っていく年でもあります。子供たちが自分に合った多様な学びと学び方を身につけることは未来に向けて必要な資質であり、学校現場としては「一律一斉の指導から脱却し、一人一人をとらえたその子に合った指導をし、教材を工夫し、学習活動を通して子供たちが、学び方を身につけられる授業をつくっていかう」ということであります。昨年度来、コロナ禍で、計画変更を余儀なくされる状況が続いております。学びを止めることはできません。日々の授業は、子供たちにとっては一生一度だけの授業です。このことを我々は心にとめ教育を進めていくことが肝要です。

教育センターにおいても、「子供たちが主体性をもち学びを進める力を育むため、現場とつながり、授業力の向上を支える」「現場に役立つ教育センター」の目標に向けて、一步でも前に進めるために、「できることをやる。柔軟に対応する」という視点を持ち、変化する状況の中で工夫しながら、第3次学校教育基本構想の具現化のために、所員一同力を合わせて事業を推進していきます。

I 研修部

1 若手教員育成研修

教職員研修係

(1) 1年次若手教員研修 (小学校 25名 中学校 10名 計 35名)

年3回、1年次の若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。指導の観点、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたります。1年目の教員として身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導、助言を行います。



「授業観察後の指導の様子」

(2) 2年次若手教員研修 (小学校 26名 中学校 9名 計 35名)

年1回、2年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。2年次教員に対して担当所員は、1年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業評価を通して、改善策等を具体的に指導していきます。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、より実践的な指導力を付けるためのアドバイスもしていきます。

(3) 3年次若手教員研修 (小学校 25名 中学校 19名 計 44名)

年1回、3年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。3年次教員に対して担当所員は、問題解決的、より実践的な授業を行うように、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力を付けていけるようアドバイスをしていきます。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導助言にあたっていきます。

(4) 夏季研修 (2年次及び3年次若手教員)

7月29日、2年次及び3年次の若手教員育成研修が半日単位で開催される予定です。2年次の研修では、授業の展開方法や教材教具の工夫、改善すべき課題等について話し合いを行い、授業改善につながる魅力ある授業作りを目指します。

3年次の研修では、保護者と協力しながら児童・生徒の指導にあたる適切な方策や、外部機関との連携について学びます。

2 教育委員会主催研修会への協力

教育委員会が主催する研修会で、主に教育センターで行われる研修会や夏季休業中に開催される教科課題別研修会の受付、会場設営等の支援業務を行います。

Ⅱ 調査研究部

調査研究部では、「理科教育推進」及び「郷土教育推進」の研究を行っています。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

理科教育推進研究委員会では、日々の授業を「ひのっ子が主体となる理科授業」とするための調査や研究に今年度も取り組んでいます。今号では、令和元年度より取り組んできた小学校6学年理科「土地のつくりと変化」の単元に日野の自然を取り入れた学習計画について紹介します。

(1) 日野の自然を取り入れるわけ

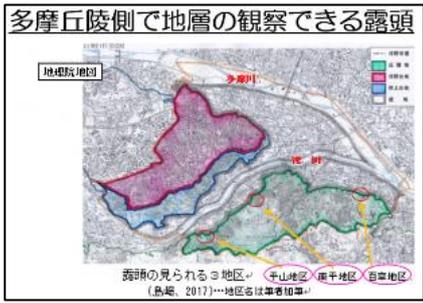
「土地のつくりと変化」の学習では、本来は地層や岩石などに直接触れることで実感を持った認識が可能となります。しかし開発の進んだ都市部においては教材となる露頭が身近に存在しにくく、教科書や映像に頼ることが多くなっています。しかし日野市においては、規模は小さいものの数か所で地層に触れられるところのあることが分かってきました。また、多摩川河川敷に露出する岩盤では、日野の土台を構成する上総層群の地層が観察され、右岸の立日橋上流下ではアナジャコなどの巣穴の化石や貝化石の密集する地層が観察できることも明確になりました。

今年度は、それらを指導計画上に位置付け、日野の自然を学習に活用する例を紹介いたします。

(2) 日野の自然を学習に取り入れる

◎ 教科書の指導計画（大日本図書による）

活用できる日野の資料

<p>1 土地をつくっているもの</p> <p>○土地の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地はどのようなものからできているか、どのようにしてできたか話し合う。 <p>○土地を作っているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> しま模様に見える土地の様子を調べる。 野外観察、ボーリング資料や映像資料 土地はどのようなものからできているのか考える。 土地がしま模様になって見えるのはれきや砂、どろ、火山灰などが層になって重なっているから。 →「地層」という。 地層には化石が含まれることがある。 <p>※丸いれきが入っている地層や角ばったれきがふくまれる地層は、どのようにしてできたのだろう。</p>	<p>・30年前の平山付近の崖の写真</p>  <p>・百草や平山の露頭</p>  <p>・ヒノクジラやアケボノゾウの化石</p>  <p>・多摩川河川敷の貝化石</p> 
--	---

2 地層のでき方

○流れる水の働きでできた地層

- ・地層のでき方を調べる。
→実験
- ・海底にできた地層が地上で見られるわけをまとめる。
→まとめ

流れる水のはたらきで地層が作られる。

○火山のはたらきでできた地層

- ・火山のはたらきと地層のでき方の関係を探る。
→火山灰を調べる。一椀がけ
- ・火山のはたらきでできた地層についてまとめる。

地層は、流れる水のはたらきや火山のふん火によってできる。

- ・岩石には、礫岩や砂岩、泥岩があることを知る。

・日野の成り立ち



・国道工事で露出した関東ローム層

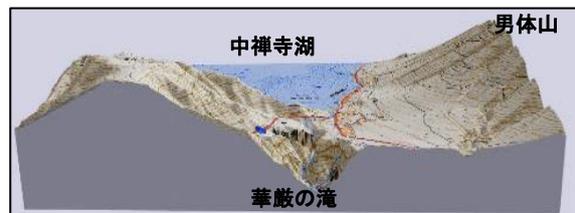


3 火山活動や地震による土地の変化

○火山活動や地震と土地の変化

- ・火山活動や地震で土地はどのように変化するだろう。
- ・火山活動や地震で土地が変化した様子を調べよう。

・華厳の滝や中禅寺湖の成因



日光移動教室と関連付けて考える。

※「活用できる日野の資料」について

教科書資料に私たちの住む日野の情報を加えることで、児童にとってより身近な生きた知識となることを期待して調査研究を進めました。

映像資料は、プレゼンテーションソフトを使って作成し、市内の学校に提供できるように準備しています。

百草・平山の露頭、多摩川の河川敷での郊外学習は、直接出かけられる学校は現地学習が効果的ですが、遠方の学校には採取したサンプルを提供できるよう準備しています。

2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

(1) 郷土教育推進研究委員会

① 研究主題に込めた願い

第3次日野市学校教育基本構想の具現化を目指し、創意工夫して授業づくりに取り組みます。郷土教育推進研究委員会で特に着目したのは、以下の項目です。

- 疑問や驚きから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く過程を大切にします。
- 子供たちは、地域で自分を感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく。
- 子供たちは、ふるさと**ひの**での活動を土台として、その先の世界へ飛び出していきます。
- 先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げてくれたり、いろいろな考え方に合わせてくれます。（第3次日野市学校教育基本構想より）

そこで研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」としました。

② 目指す授業像を明らかにする

研究主題を委員会で共通理解するために、目指す授業像を明らかにしました。

	郷土への愛着を高める児童	➡ 地域と共に生きようとする児童
授業像	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 郷土の人・こと・ものを知る授業 ◦ 郷土を身近に感じる授業 ◦ 郷土の良さや素晴らしさに感動する授業 ◦ 郷土を誇りに思う授業 ◦ 郷土の大切さ、かけがえのなさを感じる授業 ◦ 郷土の人々とつながる授業 ◦ 郷土に生まれ、郷土の一員である自分を自覚する授業 <p>※ 「愛着」・・・心がひかれて、大切にしたいという思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 郷土を大切にする心や力が育つ授業 ◦ 郷土の営みに協力する心や力が育つ授業 ◦ 郷土に貢献する心や力が育つ授業 ◦ 郷土を元気にする心や力が育つ授業 ◦ 郷土を発展させようとする心や力が育つ授業 ◦ 郷土に生まれ、生活している自他を大切にする心や力が育つ授業 ◦ 自己の郷土への思いを発信し、郷土を愛する仲間を増やそうとする心や力が育つ授業 ◦ 郷土で培われた個性を生かし、他地域や外国においても自己の務めを果たそうとする心や力が育つ授業
育みたい学習態度	<p>～主体的・対話的で深い学び～</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 自ら課題、自ら解決…探究的に学習する ◦ 人と関わることによって、考えを深めたり、新たな情報を得たり、協力・分担して研究したりする <ul style="list-style-type: none"> ◦ ものごとを自分との関りでとらえる ◦ 学んだことを通して自己の生き方を考える <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学んだことを発信する 	

③ 4 グループそれぞれがテーマを決めて

研究は4グループ編制で行い、2学期には全グループが研究授業を行います。A・B・C・Dグループの現時点での研究テーマを紹介します。

- A・・・日野の米作り（発達段階に応じて取り組む）。
- B・・・郷土への愛着を深める ～身近な地域をもっと知ろう～。
- C・・・「用水」「まつり」「伝統・文化」など夏季研修の中からテーマを見付ける。
- D・・・日野の養蚕業（文言は今後工夫する）。

④ 期待の夏季研修会

7月28日（水）に実施します。令和2年度はコロナ禍で開催できなかったもので、2年ぶりです。集合と出発場所は、新選組のふるさと歴史館です。午前は、グループごとに「新選組」「日野煉瓦」「養蚕」「日野宿」などの課題を立て、訪問先を決めてフィールドワークを行います。



訪問先を決める話合いに熱がこもる

午後は、午前中のまとめと、地域資源の教材化に関する講義です。先生方のわくわくが、子供たちが目を輝かす授業の実現につながると思います。

(2) ふるさと文化財課、図書館、中央公民館との連携

令和3年度に新たな組織として誕生した「ふるさと文化財課」の協力を得、図書館、中央公民館と力を合わせて郷土教育の充実を図っています。毎月の委員会には、ふるさと文化財課2名、図書館1名、中央公民館1名、合計4名の職員が委員として参加しています。夏季研修会では、ふるさと文化財課の学芸員が専門性を生かした解説や講義を予定しています。

(3) 一緒に育てよう平山陸稻（ひらやまおかぼ）

平山陸稻は、1911年（明治44）に平山の篤農家林丈太郎が発見し各地に広まりました。その陸稻作りにわかば教室の子供たちと取り組み始めて、3年目になります。今年は初めて、種籾の選別、播種、苗作りの段階から参加しました。土に肥料を混ぜた苗床と無肥料の苗床を用意して種をまき、違いを比べました。肥料を与えた苗の方が大きく育ち、葉の緑色も濃くなりました。苗作りに肥料が大事であることが分かりました。6月14日（月）に子供たちが田植えをしました。子供たちは成長の様子を観察し、水が少なくなると進んで水やりをしています。8月の出穂（しゅっすい）、10月の稲刈りを楽しみに、子供たちと日々のお世話をしたいと思います。



植える手つきが見事



植えた苗が育ち始めた 6/17

6月14日（月）の午後に、カブトエビをいただきました。わかば教室で育てた苗を植えた箱に放流しました。「泳ぐ姿がかわいい」と評判です。



カブトエビは、雑草の発生を抑えてくれるらしい(約2cm)

Ⅲ 相談部

わかば教室

長期欠席の児童生徒が、安定した心理状態で過ごせる居場所であり、さまざまな学びや体験をし、人との関わりを通して、社会性や自立心の育成を目指しています。

(1) わかば通室について

小中学校で欠席が続いた場合、担任の先生は管理職の先生と相談し、わかば教室へご連絡ください。保護者・生徒との面談の予定を進めていきます。詳細につきましては面談・見学の中で説明していきます。

(2) 長期欠席の児童生徒にみられる具体例

- ・周囲の目を考えすぎて、自由に動けない。周りに気を使いすぎて疲れてしまう。
- ・誰かと関わりたい、状況も知りたいが自分から話しかけることが苦手
- ・友達関係のトラブルや学業不振などにより、自信を持てなくなっていることから、自己肯定感が低い。このままではいけないと思っているがどうすればよいかわからない。
- ・大集団・大人数・雑音・大きな音に弱く、予定変更に対応できない。

(3) 「わかば教室」での取り組み目標

- ①児童・生徒一人一人のつまずきや個性などの現状をありのまま受け止める。
- ②様々な体験活動を通して、ゆるやかな人間関係を構築させていく。
- ③各自のペースに合わせた通室時間・退室時間を認める。
- ④在籍校との連携をとり情報共有を重ね、保護者との関係の信頼も図る。

(4) 「わかば教室」での一日の流れ

☆ 9:20 「朝の会」

☆ 9:30～ 午前中学習タイム ・ わかばタイム ・ eラーニング

【 わかばタイム 】

曜日ごとに「ことば」作文・書写等 「音楽」ハンドベル 「栽培」野菜の栽培
「スポーツ」球技等 「図工・美術」水彩画・焼き物等を実施

【 eラーニング 】

一人一台のPCを使い、インタラクティブスタディ(国、数、英、社、理 等)タイピング、ペイント、プログラミング、Wordのいずれかを自分で選び、取り組んでいる。プログラミングを通して先を見通す力や、工夫して考える力がつき、その日の自分の状態や気持ちに合わせて活動内容を選ぶことができます。

☆ 12:30～13:15 昼休み (多くの児童生徒が体育館でスポーツをする。)

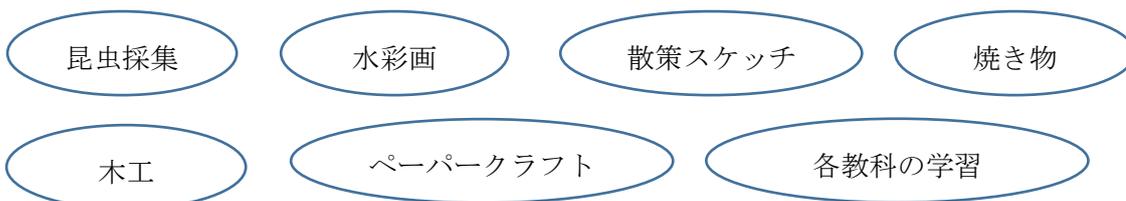
☆ 13:15～13:45 (午後) わかデミー(月・火・金) SST (木)

【 わかデミー 】

自分がやりたいことを自分で考えて決める(自主性・主体性を育てる)、それを実践することを目標とし、今ここでしかできない学びや探究を進める時間となっています。

☆考える→計画する→実行する→振り返り→表現する→やり方を工夫する→共有する

< 児童生徒のわかデミーの取り組み例 >



【 S S T (ソーシャル・スキル・トレーニング) 】

自己認知スキル、コミュニケーションスキル・社会的行動が身につくためのトレーニングをしています。具体的にはゲームやエンカウンターワークシートを使って自分の考えや他の人の意見を聞き、自分自身を客観的に見つめる場を作っています。またコミュニケーションが苦手な児童生徒のために、少人数でのグループトークも行っています。

☆13:45 小学生 帰りの会 退室

☆14:25 中学生 帰りの会 退室

(5) 行事 (本年度1学期実施できた行事)

- ① スポーツ大会
- ② 陸稲(おかぼ)の田植え体験
- ③ 散策俳句づくり 「夏を探そう」



※同じ空間の中で、他の人と自然な関わりができ、ゆるやかな相互理解が図れています。

(6) カウンセラーによる相談

わかば教室では毎日カウンセラーが常駐し、児童・生徒一人ひとりの状況に応じて丁寧に寄りそっていくことを目的としています。また保護者の方の不安や悩みを少しでも和らげることができるように随時相談も受け付けています。

(7) 「わかば教室」通室に見られる児童生徒の変化

- 「何かをしなくてはならない」という精神的に追い込まれた状況からぬけだせることで心の安定が見られるようになった。
- 静かでゆっくりと流れる環境の中で、やりたいことにじっくりと向き合えている。
- 今の自分自身を受け入れ、認められることで、自己の再発見ができ、否定的な感情が薄まっている。
- さまざまな体験ができることで、自分の興味・関心を再発見し、答えがそれぞれで良いことの実感と、可能性の幅が広がっている。

(8) G I G A スクール構想による学習支援の状況について

- ・クロムブックのクラスルームを活用し動画教材の視聴をしたり、Jamboard で意見交換を行ったりしています。
- ・タブレットを持ち帰り、通室のなかった日に生徒とミーティングで連絡を取り合っています。